



ストーマ保有者の社会認知希望と WOC ナースによるケア経験の有無との関係

安藤 嘉子 片岡ひとみ 加藤 昌子 酒井 透江 土田 敏恵 三富 陽子 渡邊 光子

ストーマ・イメージアップ・プロジェクトチーム

Relationship between WOC nursing care and ostomates' requirements regarding knowledge and understanding of stoma among Japanese society

Yoshiko Ando, MHS, RN, ET/CWOCN; Hitomi Kataoka, PhD, RN, ET/CWOCN;
Masako Kato, RN, ET; Yukie Sakai, RN, WOCN; Toshie Tsuchida, PhD, RN, ET;
Yoko Mitomi, RN, WOCN and Mitsuko Watanabe, MHS, RN, CWOCN

Stoma Image Up Project Team

Abstract

We conducted a survey of ostomates to determine whether they require Japanese society to have correct knowledge and understanding about stoma and to clarify the influence of professional care on their requirements.

A qualitative analysis was performed to clarify the reasons for their requirements regarding the understanding of stoma among Japanese society. The questionnaire was formulated based on the results of qualitative analysis and was distributed to 1000 ostomates. The response data were estimated by stratified analysis with regard to whether or not the subjects had received WOCN care.

Eighty percent of participants required society, family members and health care workers to understand about stoma correctly. The WOCN care that the subject received was related to their individual requirements. It was realized, however, there were issues that could not be resolved by WOC Nursing care only.

Key words : certified nurse in wound ostomy continence nurse, questionnaire, health care workers, family

要 旨

本研究の目的は、ストーマ保有者が一般社会においてストーマを正しく認知してほしいと希望しているかどうかを

連絡先 (Corresponding author) : 安藤 嘉子
大阪赤十字病院看護部

〒543-8555 大阪府大阪市天王寺区筆ヶ崎町 5-30

安藤 嘉子 (093-93) 受理日 : 2009年4月13日

明らかにすることと、認知を求める背景に WOC ナースによるケア経験が関係しているかを明らかにすることである。まずストーマ保有者が認知を希望する理由について質的に分類した。この結果をもとに 1000 名のストーマ保有者に対して自記式質問紙調査を行い、WOC ナースによるケア経験の有無で層別化し統計学的分析を行った。その結果、8 割以上のストーマ保有者が一般社会・医療従事者・家族に正しく理解されたいと希望しており、その背景に WOC ナースによるケアが関係していた。しかし、WOC ナースによるケアのみでは解決できない問題もあり、今後の課題であることが分かった。

キーワード：皮膚・排泄ケア認定看護師、質問紙調査、医療従事者、家族

緒言

近年ストーマ装具やケア技術の進歩に伴い、ストーマ管理方法は飛躍的に進歩し、排泄管理やにおいの問題は改善されつつある。しかし、排便や排ガスに伴う音、排ガスによるストーマ袋の膨らみ、ストーマ位置不良による確実なストーマ装具装着困難など、依然としてストーマ保有者はさまざまな障壁とともに社会生活を送っている¹⁾。そのため、1990 年代よりストーマ保有者の QOL に関する調査が行われるようになった。

ストーマ保有者を対象とした QOL 調査では、自作のアンケートによる調査や、信頼性と妥当性が検証された質問票を用いた調査などが行われ^{2) - 4)}、ストーマ外来での指導の重要性や^{5) 6)}、日常生活への支障⁷⁾や活動性の安定への支援の重要性が述べられている⁸⁾。ストーマ保有者への支援については、社団法人日本オストミー協会による調査では⁹⁾、会員の約 4 割に Wound, Ostomy, Continence Nurse によるケア経験があると回答しているものの、WOC ナースの介入による影響については述べられていない。さらに、ストーマ保有者の心理上の問題や社会上の問題を指摘し、必要な情報が社会に提供されていないと報告している¹⁰⁾。そこで本研究は、ストーマ保有者の社会における活動性の安定を支援するために、①一般社会・医療従事者・家族に対するストーマの認知希望についてストーマ保有者のニーズを明らかにすること、②ストーマ保有者の社会認知を求める背景に、WOC ナースによるケア経験が関係しているかどうかを明らかにすることを目的とした。

用語の定義

社会的認知：ストーマ保有者をとりまく社会（一般社会・家族・医療従事者）におけるストーマやケア方法、ストーマを保有しても通常の日常生活を送ることができるといふ正しい理解や認識。

WOC ナース：国内外の ET (Enterstomal Therapist) Nurse, Wound, Ostomy and Continence Nurse の教育

プログラム修了者および日本看護協会が認定する皮膚・排泄ケア認定看護師あるいはストーマ保有者が WOC ナースと捉えているナースを呼ぶ。

研究デザイン

半構成的インタビューによる質的分析と質問紙調査。

研究方法

ストーマ保有者の社会的認知希望の有無とその影響する要因を明らかにするために、第一段階として半構成的インタビューによる予備調査を行った。さらに、予備調査の結果を一般化することが可能かどうか、また WOC ナースによるケア経験が関連するかについて、第二段階として全国調査を行った。

1. 第一段階：ストーマ保有者における社会認知希望の実態調査と希望理由の内容分析

1) 対象

研究者が所属する医療機関計 6 施設（特定機能病院 1 施設、急性期病院 5 施設）で研究者である WOC ナースによるケアを受けているストーマ保有者 82 名。

2) 方法

対象者に対して社会的認知希望とその理由について聞き取りおよび自記式質問紙調査を 2006 年 10 月に行った（表 1）。その自由回答の内容を整理・分析した。WOC ナース経験 10 年以上のエキスパート 3 名で内容分析を行い、同じくエキスパート 2 名のスーパーバイズを得た。

2. 第二段階：社会的認知希望についての全国実態調査

1) 対象

第一段階の結果を一般化することと、対象の属性を拡大するために日本オストミー協会会員から無作為抽出された 1000 名を対象とした。

2) 調査方法および期間

2007 年度に日本オストミー協会が行った第 6 回オストメイト生活基本実態調査に、社会に対するストーマの啓発活動希望や生活上の悩みなど第一段階調査で得られた結果から作成した独自の質問を 7 項目追加し、郵送に

表 1 第一段階調査 ストーマ保有者における社会認知希望の実態調査と希望理由の質問内容

1. 社会的認知の希望とその理由
2. 家族からの正しい理解の希望とその理由
3. 医療者からの正しい理解の希望とその理由
4. ストーマに関するイメージ広告の希望とその媒体
5. ストーマのイメージをアップする活動についての希望

表 2 第二段階調査 社会的認知についての全国実態調査質問紙

1. 一般的にストーマが正しく理解されていると思いますか。 1) 理解されている 2) あまり理解されていない 3) まったく理解されていない												
2. 今までにストーマが正しく理解されていないために困ったことはありましたか。 1) ある 2) なし												
3. ストーマについて一般社会に正しく理解してほしいですか。 1) はい (下の理由の項目からあてはまるものの記号をすべて記入して下さい) 2) いいえ												
4. ストーマについて医療者に正しく理解してほしいですか。 1) はい (下の理由の項目からあてはまるものの記号をすべて記入して下さい) 2) いいえ												
5. ストーマについて家族に正しく理解してほしいですか。 1) はい (下の理由の項目からあてはまるものの記号をすべて記入して下さい) 2) いいえ												
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: left;">理由の項目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ア、公共施設の利用を拒否された</td> <td>カ、誰でもストーマをもつ可能性があるのを知っておくとよい</td> </tr> <tr> <td>イ、普通に生活できることを知ってほしい</td> <td>キ、家族と協力して生活するため</td> </tr> <tr> <td>ウ、外に出ることが少なくなった</td> <td>ク、自分たちのニーズに親身になってほしい</td> </tr> <tr> <td>エ、対人関係に困った</td> <td>ケ、その他 ()</td> </tr> <tr> <td>オ、他の病気で受診や入院したとき困った</td> <td></td> </tr> </table>	理由の項目		ア、公共施設の利用を拒否された	カ、誰でもストーマをもつ可能性があるのを知っておくとよい	イ、普通に生活できることを知ってほしい	キ、家族と協力して生活するため	ウ、外に出ることが少なくなった	ク、自分たちのニーズに親身になってほしい	エ、対人関係に困った	ケ、その他 ()	オ、他の病気で受診や入院したとき困った	
理由の項目												
ア、公共施設の利用を拒否された	カ、誰でもストーマをもつ可能性があるのを知っておくとよい											
イ、普通に生活できることを知ってほしい	キ、家族と協力して生活するため											
ウ、外に出ることが少なくなった	ク、自分たちのニーズに親身になってほしい											
エ、対人関係に困った	ケ、その他 ()											
オ、他の病気で受診や入院したとき困った												
6. ストーマについて正しく理解してもらうためにはどのような広報が望ましいと思いますか。(複数回答可) 1) テレビ・ラジオ 2) 新聞 3) 公共広告機構などのポスター 4) 市民講座など 5) インターネット 6) 公共広報誌 (市民広報紙など)												
7. ETナース・WOCナース (ストーマケアを専門とする看護師) のケアを受けたことがありますか。 1) はい 2) いいえ												

よる自記式質問紙調査を行った。なお、回答選択肢は、第一段階調査においてカテゴリー化した際に各サブカテゴリーから均等に、最も多いコードから抽出した(表 2)。

3) 分析方法

WOC ナースによるケア経験の有無で層別化し、基本属性や生活上の悩み、啓発活動の希望など 10 項目についてカイ 2 乗検定と一元配置分散分析を行った。統計ソフトは SPSS Ver.15 for Windows を用いた。

3. 倫理的配慮

第一段階の調査は、研究者が所属する各施設での倫理規定に基づく審査のうえ、個人が特定されないよう配慮し、研究への参加是非で不利益が生じないことを文書と口頭で説明した。第二段階の全国調査においては、日本オストミー協会の調査方法に則り、連結不可能無記名の集計方法で、研究参加の同意は返送をもって得られたものとした。回収、集計は第三者機関が行うこととした。

結果

1. ストーマ保有者が社会認知を希望する理由の分類

1) 対象の属性

82 名のストーマ保有者のうち、ストーマ保有年数 1 年未満が 36 人 (44%) で、約半数が結腸ストーマ保有者であった。就労割合は 26 名 (30%) であった(表 3)。

2) 認知を希望する理由

年代・性別・ストーマ保有年数・就労の有無・ストーマの種類に関係なく、66 名 (80%) が一般社会・家族・医療従事者にストーマを正しく知ってもらいたいと回答した。その理由として記載されている自由回答を整理・分類したところ、《社会生活における困難》、《ストーマと共生するための身近な人との関係調整》、《ストーマを取り巻く社会への期待》、《現在・未来のストーマ保有者への貢献》の 4 つのカテゴリーに分類され

性別, n (%)	男	31 (37.8)
	女	51 (62.2)
年代, n (%)	30代	4 (4.9)
	40代	5 (6.1)
	50代	18 (22.0)
	60代	26 (31.7)
	70代	21 (25.6)
	80代	8 (9.8)
ストーマ造設経過年数 (年)	1年未満	36 (43.9)
	1年以上-3年未満	22 (26.8)
	3年以上	24 (29.3)
就労, n (%)	あり	26 (31.7)
	なし	56 (68.3)

た。(表4)。

《社会生活における困難》のサブカテゴリーは「ストーマ造設後の苦悩の振り返り」、[社会認知不足により受けた不利益]、[社会認知不足の実感] から構成された。《ストーマと共生するための身近な人との関係調整》は「家族への依存と自立」、[家族・対人関係での障壁]、[医療機関での不利益] から構成された。《ストーマを取り巻く社会への期待》のサブカテゴリーは「製品開発への要望」、[一般社会への要望]、[医療従事者への要望] であった。《現在・未来のストーマ保有者への貢献》は「健常人へのメッセージ」、[同業者間の支え合い] によって構成された。

2. 全国調査結果

1) 対象者の属性 (表5)

調査用紙配布数は1000通で、回収は648通(65%)で、有効回答数は592名(59%)であった。平均年齢は72歳、男女比は1:0.6であった。ストーマ造設経過年数は平均14年で、ストーマの種類別では結腸ストーマ保有者が431名(73%)と最も多かった。WOCナースによるケア経験があったのは286名(48%)であった。

2) ストーマ保有者の社会的認知希望の実態

社会的認知希望の割合は、一般社会への希望が429名(88%)、医療従事者への希望が390名(86%)、家族への希望が391名(86%)であった。

それぞれの理由で最も多い意見は、表6に示すとおり、一般社会への認知希望では「誰でもストーマをもつ可能性があるから」が182名(51%)、医療従事者への認知希望では「ほかの病気の受診や入院したときに困った」が155名(51%)、家族への認知希望では「家族と協力して生活するため」が238名(75%)であった。

3) 社会的認知希望とWOCナースによるケア経験の関係

ストーマが正しく理解されていると実感している人の割合は、WOCナースによるケア経験あり群では17%、WOCナースによるケア経験なし群14%と有意差がなかった。困った経験をもつ人の割合はWOCナースによるケア経験の有無において差がなかった(WOCナースによるケア経験あり41%、なし42%)。

(1) 社会においてストーマが正しく理解されているとストーマ保有者が感じているかどうかによる認知希望の差異(図1)

WOCナースによるケア経験の有無に加えて、ストーマが正しく理解されていると感じているかどうかでさらに層別化し、認知希望の有無の割合を比較検討した。一般社会への認知希望の割合は、WOCナースによるケア経験なし群において「正しく理解されていない」と感じている人は「正しく理解されている」と感じている人よりも有意に高かった(p=0.008)。家族に対する認知希望の割合も同様に、正しく理解されていないと感じている人に対して有意に多かった(p=0.023)。しかし、医療従事者に対しては、正しく理解されていると感じているかどうかで、認知希望の割合に差はなかった。

一方、WOCナースによるケア経験あり群では、正しく理解されていると感じているかどうかで、一般社会・医療従事者・家族に対しての認知希望に差はなかった。

(2) ストーマが正しく理解されていないために困った経験の有無による認知希望の差異(図2)

つぎに、ストーマが正しく理解されていないために困った経験があるかどうかで層別化して検討した。一般社会に対しては、WOCナースによるケア経験の有無にかかわらず困った経験のある人はいない人よりも認知希望の

表 4 ストーマ保有者が一般社会・医療従事者・家族への正しい認知を希望する理由

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
社会生活における困難	ストーマ造設後の苦悩の振り返り	一般的には話しにくい 個人としては隠したい 口にすると自分を否定してしまう 外に出ることが少なくなった 社会生活に支障が出る 説明するたびに落ち込んでしまう 毎日が闘いだっただ 知らないことが沢山あった
	社会認知不足により受けた不利益	ストーマが通じず説明に困る プール利用を断られた ストーマから周りを汚染すると理解されている
	社会認知不足の実感	一部の人がしか分かっていない 一般の人は知りたくないと思う 普通に生活できることを知ってほしい よりよい社会生活を営むため 日常生活を普通に行うため 情報をもっと入りやすくなる オストメイトトイレの利用がしやすくなる 温泉や宿泊施設には知ってほしい
ストーマと共生するための 身近な人との関係調整	家族への依存と自立	家族に理解してサポートしてもらえると助かる 家族の助けが必要 家族が知ることは当然 家族が支え 家族が知っていると手伝ってもらえる 家族に迷惑をかけないため自立したい 家族といっても所詮は他人 子供や夫には話したくない
	家族・対人関係での障壁	幼い子供には伝えていない 子供がストーマを見てびっくりした 教育者であるが生徒にうまく伝えられない
	医療機関での不利益	他疾患の主治医が知らない 内視鏡室の看護師が装着方法が分からず困った ストーマケアを知らないナースが多く手伝ってもらえないので困る 他の施設に入院したときに困った ケアを受けるときに毎回説明しなければいけない ストーマケアのことは対応してくれない
ストーマを取り巻く社会への 期待	製品開発への要望	便利な商品開発をしてほしい ストーマのことを気にしなくてよい製品があれば問題ない 以前の生活により近づけるような製品開発が必要
	一般社会への要望	福祉関係やボランティアの人に知ってほしい テレビなどで広報してほしい 世間に知ってもらおうと生活しやすくなる 正しい知識を知ってもらおう情報源が必要 政治家を動かして大々的なアピールが必要 障害者の啓発の1つ 皆が関係あるというイメージが必要
	医療従事者への要望	医療従事者が知るのは当たり前 ほかの病気をしたときに不安になる 家での苦勞を聞いてほしい メンタルサポートをしてほしい 自分たちのニーズに親身になってほしい アフターケアを充実させてほしい
現在・未来のストーマ保有 者への貢献	健常人へのメッセージ	急にストーマになったとき驚かない いつ誰がストーマになるかもしれない 誰でもストーマになる可能性がある
	同憂者間の支え合い	この病気の人のために重要 助け合いができる 皆で言うところこわくない

性別, n (%)	男	366 (61.8)
	女	226 (38.2)
年齢 (歳), mean ± SD		71.7 ± 9.9
range		33-94
ストーマ造設経過年数 (年), mean ± SD		14.3 ± 8.8
range		1-45
ストーマの種類, n (%)	結腸ストーマ	431 (72.8)
	小腸ストーマ	32 (5.48)
	尿路ストーマ	96 (16.2)
	ダブルストーマ	16 (2.7)
	不明	17 (2.9)
専門的ケア経験, n (%)	あり	286 (48.3)
	なし	306 (51.7)

一般社会への認知希望	①誰でもストーマをもつ可能性があるので知っておくとよい	182 (51.3)
	②普通に生活できることを知ってほしい	167 (47.0)
	③ほかの病気の受診や入院したときに困った	56 (15.8)
医療従事者への認知希望	①ほかの病気の受診や入院したときに困った	155 (51.3)
	②自分たちのニーズに親身になってほしい	107 (34.4)
	③普通に生活できることを知ってほしい	41 (13.6)
	③誰でもストーマをもつ可能性があるので知っておくとよい	41 (13.6)
家族への認知希望	①家族と協力して生活するため	238 (75.3)
	②誰でもストーマをもつ可能性があるから	61 (19.3)
	③自分たちのニーズに親身になってほしい	49 (15.5)

割合が有意に高かった (WOC ナースによるケア経験あり群 $p=0.001$ 、なし群 $p<0.001$)。医療従事者と家族に対しては、WOC ナースによるケア経験あり群では認知希望の割合に差はなかった。しかし、WOC ナースによるケア経験なし群では、困った経験がある人はない人にくらべて認知希望の割合は有意に高かった (医療従事者への希望 $p<0.001$ 、家族に対する希望 $p=0.024$)。

考 察

本調査を通して、ストーマ保有者の8割以上が社会認知を希望しており、WOC ナースによるケア経験が関係することが分かった。

1. ストーマ保有者が社会認知を希望する理由・背景

第一段階調査であるストーマ保有者82名に対する認知希望調査の結果では、約8割が認知を希望すると答え、その理由の自由記載にはストーマ保有者の思いが表出されていた。それらは、ストーマ保有者が社会に適応していくうえで重要な意味をもつ内容であるといえる。

《社会生活における困難》では、[ストーマ造設後の苦悩の振り返り]を語り、[社会認知不足により受けた

不利益] や [社会認知不足の実感] で構成され、ストーマ造設後に感じたり、実体験した経験などからストーマ保有者が社会生活を送ることの困難さの実態がうかがえる。

《ストーマと共生するための身近な人との関係調整》は[家族・対人関係での障壁]と[医療機関での不利益]を感じながらも[家族への依存と自立]を語っている。祖父江ら¹¹⁾はストーマ保有者が自己適応していくためには自己効力感と家族の支えが大きく影響すると述べている。本調査でもさまざまな不利益を経験しながらも、ストーマ保有者が自己の生活と家族関係を維持して適応していく姿勢がうかがえる。ストーマ保有者自身のみならず家族や一般社会がストーマを正しく理解し、ストーマ保有者の自立と周囲の支えによって社会生活が円滑にいくものであると考える。

《ストーマを取り巻く社会への期待》では、ストーマ保有者として社会適応するためには前述の自己適応だけでは不十分であると考えられる。[製品開発への要望]という具体的な要望以外にも[一般社会への要望]、[医療従事者への要望]があり、特に医療従事者がより具体的に

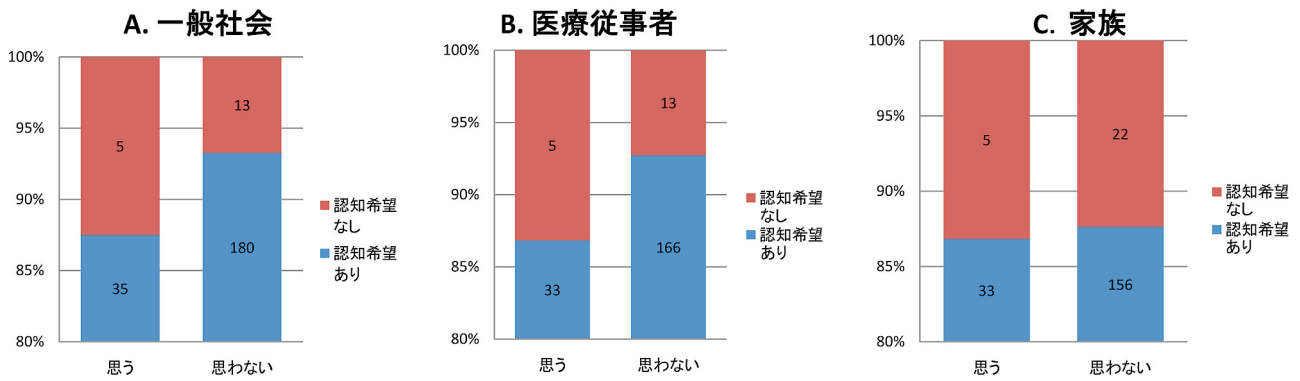


図 1-1 WOC ナースの経験あり群における理解されている感と認知希望

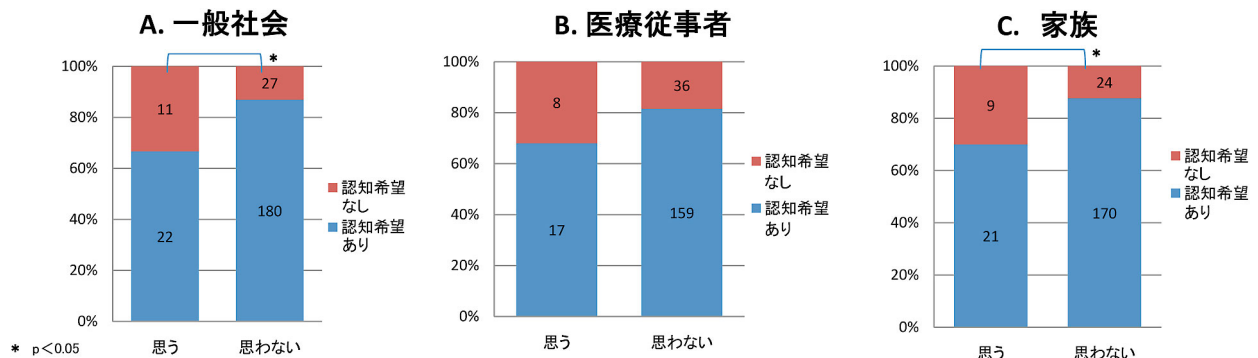


図 1-2 WOC ナースの経験なし群における理解されている感と認知希望

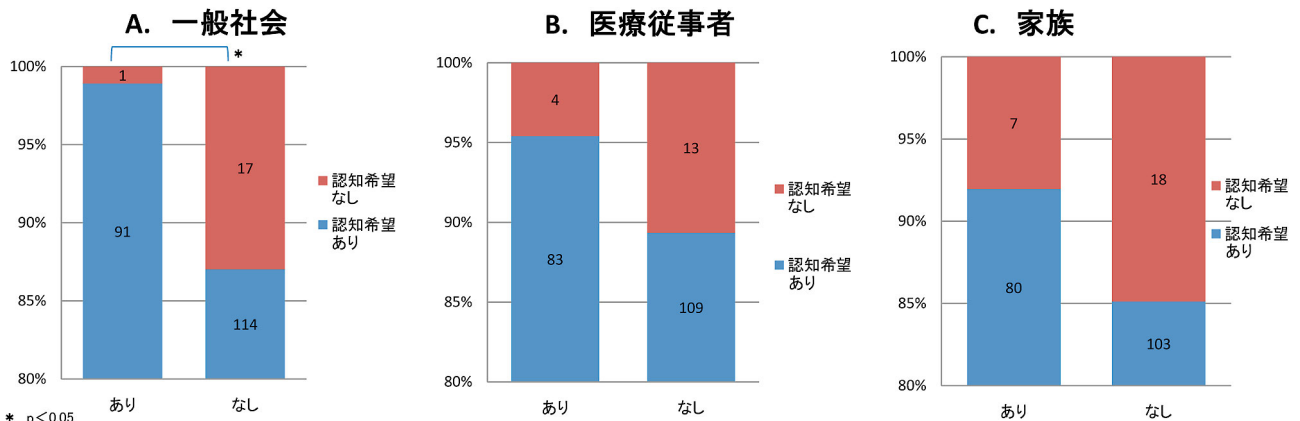


図 2-1 WOC ナースの経験あり群における困った経験と認知希望

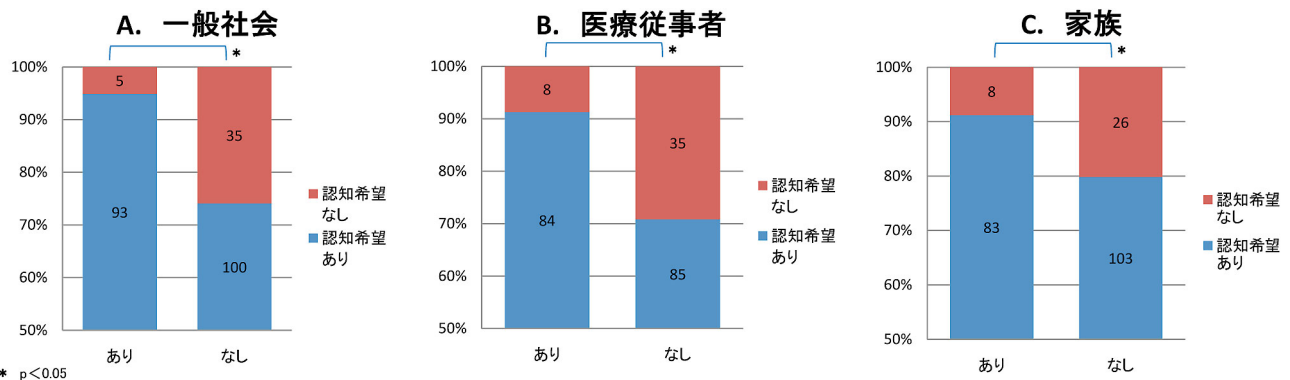


図 2-2 WOC ナースの経験なし群における困った経験と認知希望

ストーマケアについての知識や理解を深め、生活者としてのストーマ保有者のニーズに応えることが非常に重要であると考え。そこには医療従事者のかかわりが影響することが示唆される。

《現在・未来のストーマ保有者への貢献》は、〔健常人へのメッセージ〕、〔同憂者間の支え合い〕で構成され、ストーマ保有者は自己の問題解決のみならず同憂者をはじめとして健常人など、他者に対しても役に立ちたい、ストーマに関して社会に貢献したいという思いが強いことが分かる。

2. ストーマ保有者の社会認知希望の実態

第一段階の調査で抽出した項目を選択肢にした全国調査において、一番多く支持された社会認知希望の理由は家族に対して「家族と協力して生活するため」が75%を占め、ついで「誰でもストーマをもつ可能性があるので知っておくとよい」、「ほかの病気の受診や入院したときに困った」であった。第一段階調査の結果と同様に全国調査においてもストーマ保有者は、自身が社会生活を円滑に送るためだけでなく、現在・未来のストーマ保有者が生活しやすい社会をつくることを望み、そのための社会への正しい認知が必要であると希望していると考え。このことはストーマ保有者に対するWOCナースによるケアのみでは解決できるものではなく、社会全体への啓発活動が必要であると考え。

3. 社会においてストーマが正しく理解されているとストーマ保有者が感じているかどうかによる認知希望の差異

WOCナースによるケア経験のない場合で、ストーマが正しく理解されていると思わない人は、一般社会と家族に対して認知希望の割合が有意に高かった。しかし、WOCナースによるケア経験のある場合は、正しく理解されていると感じているかどうかに関係なく、80%以上の方が認知を希望していた。添嶋らの研究では¹²⁾、医療従事者からの情緒的・情動的サポートはストーマ保有者の受容に強い影響を及ぼし、思考の変換に必要な方法であることを報告している。さらにストーマ保有者の肯定的な生き方が、社会活動を促進すると報告¹³⁾されている。したがってWOCナースによるケアを受けることにより、ストーマとともに肯定的に生きることを指向し、その結果ストーマ保有者の社会や周囲の人たちへの期待がさらに高まることが推察される。

医療従事者に対する認知希望は、WOCナースによるケア経験の有無や正しく理解されていると感じているかどうかには影響されていなかった。これはストーマ造設にいたった疾患以外の治療で、専門的知識を有しない医

療従事者と接触する際の不安や要望によるものから、医療従事者に対する認知希望が高かったと考える。第一段階の調査も同様に「ほかの病気をしたときに困る」や「医療従事者は知っていて当たり前」と医療従事者に対する正しい理解を求めている。

4. ストーマを正しく理解されていないために困った経験の有無による認知希望の差異

家族と医療従事者に対する認知希望では、WOCナースによるケア経験あり群では困った経験の有無には関係していなかった。一方、WOCナースによるケア経験がない場合は、困った経験に関係していた。これはストーマ保有者の家族支援・家族との関係調整にWOCナースによるケアが有用であることが考えられる。しかし、一般社会に対してはWOCナースによるケア経験よりも困った経験に関係していた。今回の調査では困った経験の詳細については不明であるが、社会生活を営むうえでの障壁はWOCナースによるケア経験とは別の要素やニーズがあるのかもしれない。したがってストーマ保有者が社会へ適応するための支援は対象者への介入のみならず、社会に対しての働きかけが重要であると考え。本調査では、ストーマ保有者は自分自身に対して、よりよい理解者を求めていると同時に、社会においてストーマが正しく認知されることと、他者への貢献を意識していることが明らかになった。

5. 今後の展望

WOCナースによるケアにより、ストーマ保有者の適応とリハビリテーションがよいこと¹⁴⁾や、健康関連QOLが高いこと¹⁵⁾、合併症の軽減とストーマ保有者のQOLに効果があること¹⁶⁾、疑問や不安に対して具体的に適切な対処による満足度が高いこと¹⁷⁾など、個への有効性はすでに報告されている。本調査においても、一般社会や家族・医療従事者に求める認知希望とその内容については、WOCナースによるケア経験が関係していることが明らかになった。

しかし、WOCナースによるケアの詳細とストーマ保有者からの評価については検証できていない。今後は、WOCナースによるケアが、ストーマ保有者の社会生活における成長や役割意識の変化にどのように関係するかを明らかにする必要がある。

結 論

8割以上のストーマ保有者が一般社会・医療従事者・家族に対して、ストーマについて正しい理解や認知を希望していた。その理由にはストーマ保有者として生活してきた経験から、公共施設や医療福祉機関での不利益を

受けないなど、現在や将来における暮らしやすい社会への要望があった。また健常人へのメッセージや負担の少ない製品開発や制度への提言があった。

ストーマ保有者の社会認知希望と、WOC ナースによるケア経験が関係していたことが示唆された。

謝 辞

本研究を実施、データ集計するにあたりご協力くださいました(社)日本オストミー協会、(株)コンバテックジャパンに深く感謝いたします。

本研究は(財)島津科学技術振興財団平成 19 年度研究開発助成を受けて実施した。

文 献

- 1) Nugent KP, Daniels P, Stewart B, et al. Quality of life in stoma patients. *Dis Colon Rectum* 42: 1569-1574, 1999.
- 2) 清水裕子, 清水久和, 板谷かつ子. オストメイトの Quality of life 向上のための援助に関する研究. *日ストーマリハ会誌* 9: 15-22, 1993.
- 3) 青輝昭, 横山英二, 内田豊昭, 他. 膀胱癌における各種尿路変更術と QOL に関する検討. *日泌尿会誌* 85: 616-625, 1994.
- 4) 杉澤裕, 藤岡良彰, 大場修司. 膀胱癌手術療法後の QOL—尿路変更術式による比較検討—. *日外科系連会誌* 19: 59-62, 1993.
- 5) 判澤恵. ストーマケア相談室における相談内容の分析—ストーマリハビリテーションの盲点は何か—. *日ストーマリハ会誌* 11: 27-33, 1995.
- 6) 木本美枝, 竹林宏美, 宮尾真理子, 他. 回腸導管造設を受けた患者の生活調査. *STOMA* 8: 13-14, 1998.
- 7) 伊藤直美, 数間恵子, 徳永恵子. 退院後の消化器系永久ストーマ造設患者のための生活安定感尺度の開発. *日看科会誌* 22: 11-20, 2002.
- 8) 片岡ひとみ, 上月正博, 舟山裕二, 他. コロストメイトの QOL, 健康状態, 不安状態及び抑うつ傾向の関係について. *日ストーマリハ会誌* 20: 84-90, 2004.
- 9) 社団法人日本オストミー協会. 第 6 回オストメイト生活実態基本調査, 調査報告書. 2007.
- 10) 社団法人日本オストミー協会. ストーマケアについての調査報告書. 1995.
- 11) 祖父江正代, 前川厚子, 竹井留美. 結腸ストーマ保有者の自己適応過程とそのパターン分析. *日 WOCN 会誌* 11: 41-51, 2007.
- 12) 添嶋聡子, 森山美和子, 中野真寿美. オストメイトのストーマ受容度とセルフケア状況およびストーマ受容影響要因との関連性. *広大保健学ジャーナル* 6: 1-11, 2006.
- 13) 道廣睦子, 村上生美, 小野ツルコ, 他. ストーマ保有者の社会活動とその関連要因. *日ストーマリハ会誌* 22: 73-79, 2006.
- 14) Daly W, Carnwell R. Nursing roles and levels of practice: a framework for differentiating between elementary, specialist and advancing nursing practice. *J Clin Nurs* 12: 158-167, 2003.
- 15) Ayise K, B Bulent M, Aytug U, et al. Impact of stomatherapy on quality of life in patients with permanent colostomies or ileostomies international. *J Colorectal Dis* 18: 234-238, 2003.
- 16) Jaramillo, Elizondo, J, Jones, P, Corfero, J, Wang, J. Practical guidelines for developing a hospital-based wound and ostomy clinic. *Ostomy Wound Manage* 43: 28-39, 1997.
- 17) 宮崎啓子, 赤井澤淳子, 高橋純, 他. ストーマケア指導における患者満足度調査. *日 WOCN 会誌* 11: 30-40, 2007.